

ふくふく通信

新春号

21号

発行 常岡病院広報委員会 072-772-0531

法人理念

患者様・利用者様本位の科学的根拠に基づいた良質な医療・介護サービスの提供

基本方針

- 私たちは、患者様・利用者様の安全・安心・信頼を得る為に専門職の義務として医療知識の習得、医療技術の研鑽に努めます。
- 私たちは、地域に根ざした病院を目指し病連携、病診連携を図ります。
- 私たちは、患者様・利用者様に満足のいく説明と情報開示を行います。
- 私たちは、患者様・利用者様の権利を尊重し、自立への支援に努めます。
- 私たちは、患者様・利用者様満足の向上を目指して継続的改善を実践します。

2019年

豊明会グループの抱負と課題

医療法人社団豊明会 理事長 常岡豊



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

振り返ってみますと2018年は災害の年でした。6月の大阪府北部地震から、豪雨、夏の酷暑、9月の台風、さらには9月の北海道胆振東部地震など災害が次々と発生し、我々の生活に大きな被害を与えました。特に台風21号では長時間停電が回復せず、当院ではこの間は自家発電装置により入院患者さまの診療は続けましたが、外来診療はほぼ不可能になりました。今後はたとえ災害時であっても診療体制を持続できるように災害対応体制を向上させることが必要であると思ひました。

また、昨年4月には医療、介護保険の改正がありました。当法人でも以前から、介護付有料老人ホーム「サニーガーデン伊丹」の開設、リハビリ特化型デイサービス「エミナス」、短時間型デイケア、地域包括ケア病棟の開設など、たとえ脆弱になつてもできるだけ住み慣れた地域での生活を続けられるように地域包括ケア体制の充実を行ってきましたが、今後ますますこれを進めることが地域の医療機関に強く求められた改正でした。

国が目指している取り組みにACP(アドバンス・ケア・プランニング)が最近になって「人生会議」という名前がつけました。が加わり

ました。誰でも命に関わる大きな病気やけがをする可能性があります。約70パーセントの方が医療・ケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。もしものときのために、自らが望む医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組をACPと呼び、多くの専門職の参加が求められています。

ここに上げた課題の達成のためには職員が自ら技術を向上させ、職責を果たし、誇りを持って働けるように教育システムの強化と、処遇の改善を目指すことも必要です。

新年を迎え、かかりつけ医として地域の皆さまに安心して利用していただける豊明会を目指し、これらの課題を達成するために次に掲げる目標に全員で取り組みます。

- 1 災害時にあつても、地域の医療機関として安心で安全な医療を続けられるように事業継続計画(BCPと言います)を充実させます。
- 2 入院医療と在宅医療の間での円滑な移行を目指し多職種での取り組みを向上させることで地域包括ケアを推進します。
- 3 アドバンス・ケア・プランニングを推進します。

豊明会グループを支えるリーダーたちの2019年決意表明

連携を強め 変化に対応できる力

2018年は医療・介護の新規事業を立ち上げてから数年が経過し、現状では各事業所の連携・協働による相乗効果が図れていないことが反省点であります。今後も各事業所が担う事業を理解し、調整役として総合力を高めていくことが必要と考えています。

2019年は「法人グループ施設の運営管理業務」という広範な職責の中で、環境の変化に迅速かつ適切に対応していくことを心掛け、永続的に経営を支えるリーダーとしてプラス思考で前進していきます。



法人本部 本部長 山本 二郎



さらなる質の向上を目指して

平成最後となる2018年は台風、地震、水害等何かと災害多発の年でしたが、幸い当院の機能や設備、職員への特段の被害もありませんでした。その幸運もあつて地域包括ケアシステムの構築・運用も進展し、さらにリハビリの充実、質の向上と相まって地域住民の健康・福祉への貢献度も強化されました。

百歳長寿社会への進行が予測されるなか、各職種間の連携を促進高度化し、さらなる質の向上を図って、本院の基本理念に合い、地域住民のニーズに応えていきます。



副院長 中院 昭彦

患者さまに寄り添う 薬物治療を

ここ2、3年の間に多職種連携の重要性が高まり、薬剤師の仕事も大きく変化してきました。2018年は連携をスムーズにするための会議や研修会を開催し、多職種の方と互いの仕事を理解し合う努力をしてまいりました。

今年には医師・薬剤師の連携、協働によるポリファーマシー対策や薬薬連携(病院薬剤師・薬局薬剤師)システムを構築し、患者さまの心に寄り添った薬物治療を目指していきます。



薬剤部 本部長 後藤 和子

超高齢社会において、多剤併用における問題なども増えてきている現状もふまえ、地域包括ケアシステムのなかで役割を果たしていきたいと思ひます。

グループ一丸となつて 地域に根差した病院に

地域に根差した在宅支援を通して、外来看護の充実を図る目的も兼ね「退院後訪問指導」を計画しましたが、患者・家族さまへの推進活動が思いのほか振るわず、思うような結果が得られず残念でした。

昨年の結果を踏まえ、患者・家族さまが慣れ親しんだ環境で安心して生活をしていただけますよう、関係スタッフ一丸となり、地域に根差した病院を目指し、精いっぱい、心を入れ込んで努めたいと思っております。



看護部長 辻本 貴代子

